

# LNG市場の状況と 当社の原料調達・需給調整

2019年5月31日  
東京ガス株式会社

# 本日の内容

**I. 当社の原料調達**

**II. 当社のLNG需給調整**

**III. 当社エリアの卸取引**

# I. 当社の原料調達 — 「3つの多様化」と「柔軟性の実現」 —

- 当社は、安定的かつ安価な原料調達に向けて「3つの多様化」を推進。
- 「①調達ソースの多様化」では、現在の6か国14プロジェクトからの調達を、今後はカナダ、モザンビーク、メキシコにも、調達先を多様化する予定。
- 「②契約条件の多様化」では、多様な価格指標・仕向地自由契約の獲得等を推進。
- 加えて、新規の柔軟性の高い長期契約プロジェクトにコミットしつつ、LNG市況に合わせて短期・スポット契約も最適に組み合わせることで、安価かつ柔軟性の高い調達を志向。

## 原料調達の「3つの多様化」

	これまで	これから
【多様化①】 調達ソース	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アジア・オーストラリア中心</li> <li>● 6か国14プロジェクト（18年度） ＜参考＞2010年時点 6か国10プロジェクト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 世界各地</li> <li>● <u>新規プロジェクト（カナダ、モザンビーク、メキシコ）</u></li> </ul>
【多様化②】 契約条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原油価格連動が中心</li> <li>● 長期契約が中心</li> <li>● 仕向地が限定的</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>多様な価格指標と連動</u></li> <li>● <u>仕向地の自由化</u></li> <li>● <u>長期・短期/スポット組合せ</u></li> </ul>
【多様化③】 LNGネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 輸出国と日本の取引中心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グローバルなガス田・発電所等を結ぶネットワーク化</li> </ul>

## (参考1) 原料調達「多様化」の直近の具体例

### 「3つの多様化」に資する新しい契約を次々と締結。

- 2018/5  
米国から**日本初のシェール由来**・長期契約LNGを受入  
【**長期契約、仕向地柔軟性**あり】
- 2018/6  
**モザンビーク**LNGプロジェクトからのLNG購入に関する基本合意の締結 (2019/2 売買契約締結)  
【**異なる市場・立地を活かした柔軟な需給調整**】
- 2018/10  
北米・LNG**カナダ**プロジェクトからのLNG購入に関する基本合意の締結 【**長期契約、仕向地柔軟性**あり】
- 2018/11  
北米・**メキシコ**から当社初のLNG購入に関する基本合意の締結 【**長期契約、仕向地柔軟性**あり】
- 2019/4  
シェール・イースタン・トレーディング社との売買契約に関する基本合意の締結  
【**価格指標の多様化 (石炭価格)**】

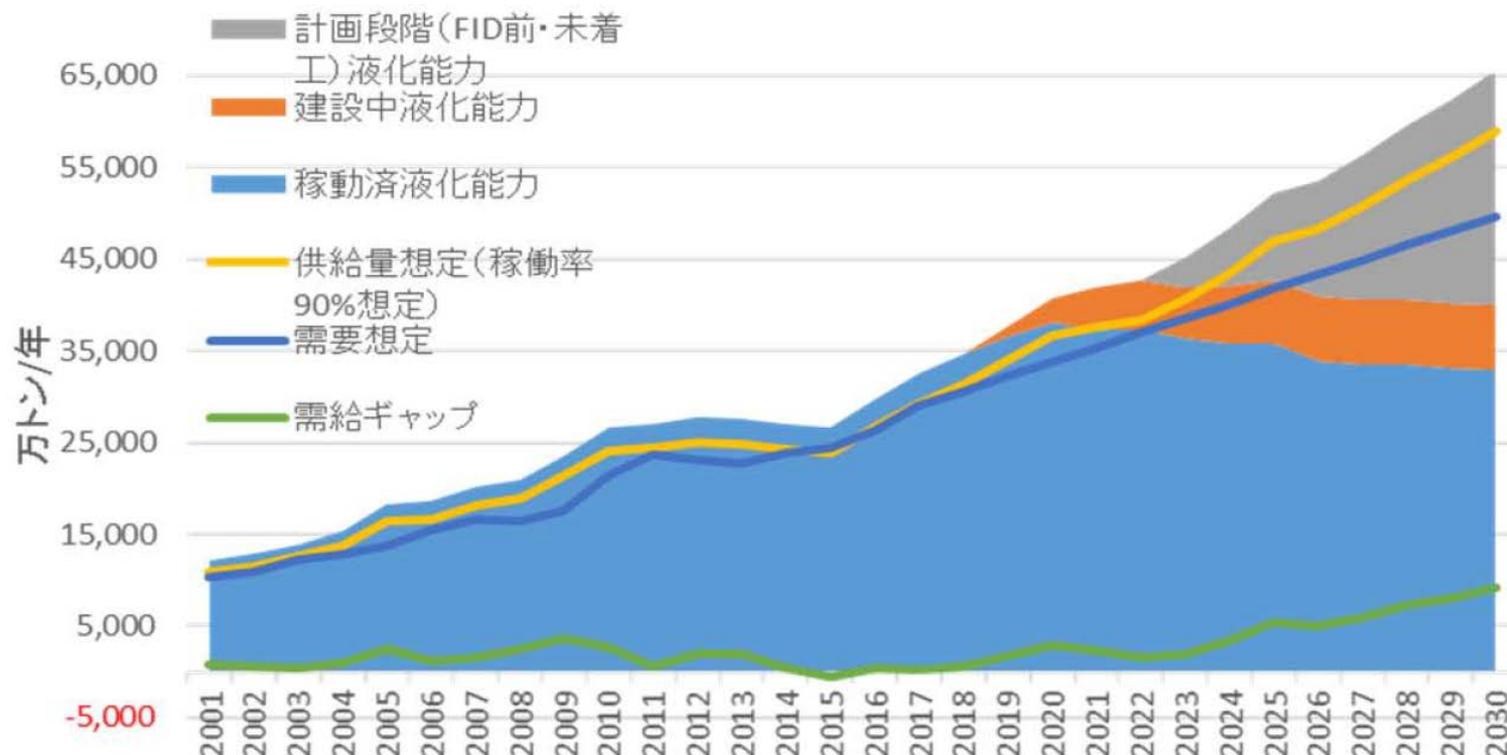


英国セントリカ社はカーゴスワップを活用し、LNGの輸送効率向上を通じたコスト削減を目指した取り組みを進めている

## (参考2) 世界のLNG需給見通し

下記出典のレポートによると『建設段階の大規模プロジェクトが順調に稼働すれば、**2020頃には一旦需給が緩和**』『**年間を通じた需給のバランスはとれていても、想定外の供給支障、冬場の需要期におけるスポット価格の高騰が懸念**』

### LNG液化能力-需要見通し



出典：天然ガス・LNG最新動向  
(独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構、18年10月17日)

## II. LNG需給調整

- ガス会社と電力会社の調達のお考え方の違いに加え、電源面でも、新電力として需要獲得計画に応じた規模の発電所を順次拡充している状況であり、LNG火力の設備的な余力が少なく、電力会社のように多様な電源ポートフォリオと多数の火力での調整は困難。
- また、国内・海外への転売についても、依然として仕向地が限定的な契約が残存していることや、需要の変化により転売先のニーズも変化するため、需給調整に活用するには一定の限界あり。

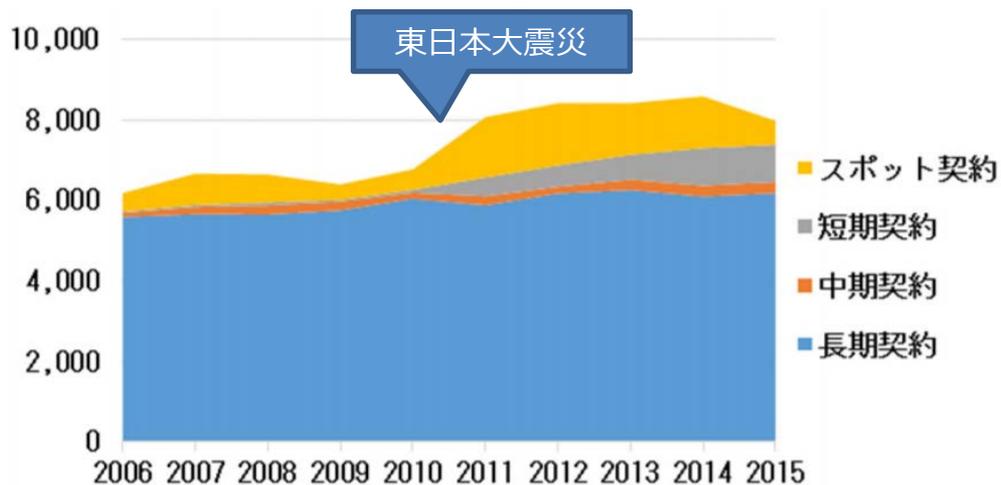
### 柔軟性の違い

	ガス会社 (新電力)	電力会社
LNG調達の 違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 都市ガスの安定的・安価な供給のため、<u>長期契約が中心。</u></li> <li>● <u>市況に合わせて、スポット契約も活用。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>多様な電源ポートフォリオの最適運用</u>を見据え、<u>スポット契約を一定量確保し、柔軟性を実現。</u></li> </ul>
電源の 違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>LNG火力中心</u></li> <li>● 需要に合わせて順次拡充。<u>設備余力は少ない。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ベース電源を含む<u>多様な電源ポートフォリオ。</u></li> <li>● <u>多数のLNG火力を既に保有。</u></li> </ul>

### 長期契約の割合（全国）

(単位：万トン)

日本における契約期間別の年間調達数量の総量の推移



出典：液化天然ガスの取引実態に関する調査報告書  
(平成29年6月 公正取引委員会事務総局)

### Ⅲ. 卸取引の状況

- 関東エリアでは、2004年の卸取引における規制撤廃以来、卸取引の競争が発生。  
(例) 卸元の切替、卸価格の値下げ等の契約条件の見直しも複数有
- 卸の長期契約は、卸先にとっても安定的・安価な調達のメリットがあるため、卸先が長期契約も含めて選択できることが重要。

#### 関東エリアの卸競争の状況

